

情報 I

(ア)～(ウ) { 学習指導要領 (1) - 知・技 - イ
学習内容 (1) - イ 法・情報セキュリティ・情報モラル

以下、法制度に関しては、日本のものについて考えるものとする。

(ア) 次の文章を読み、空欄 (1)～(5) にあてはまるものを選択肢から 1 つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

二次創作につき特に問題となるのは (1) 性の判断、裁判例の表現によれば「表現上の本質的な特徴を直接感得」できるか(中略)、との点である。

(1) 性については、少なくとも原告作品の (2) 的表現が被告作品の表現に共通していること ((2) 的表現の共通性) が必要となる。事実・(3)・(2) 性のない表現が共通するに過ぎない場合には侵害が否定される(中略)。そして一般に、漫画等のキャラクターの名称・性格・設定等は抽象的な (3) と評価され、著作権法上保護されるのはキャラクターの具体的表現(漫画の絵等)に限られる(中略)と解されている。

つまり、二次創作作品が原作のキャラの (4) や設定、短い決め台詞、容姿の抽象的な特徴等を用いるに過ぎない場合(中略)、原作の著作権・著作者人格権を侵害するものではない。このように二次創作作品の中には、原作の (5) (著作権法 2 条 1 項 11 号)ではなく、独立の新たな著作物と評価されるものが少なからず存在する。

(出典：金子敏哉「二次創作と著作権法」法学教室 449 号(2018 年)を一部改変)

[(1)～(5)の選択肢]

- (1) 創作 (2) 二次的著作物 (3) 新規 (4) 剽窃 (5) アイデア
(6) 名前 (7) 類似 (8) デザイン (9) 共同著作物 (0) 進歩

(イ) 特許法に関する説明として、正しいものを次の選択肢から 1 つ選び、その番号を解答欄 (6) にマークしなさい。

- (1) 特許権は、原則として設定登録から 70 年をもって消滅する。
(2) 発明の内容を、守秘義務を伴う契約に基づいて委託先の従業員に開示した場合、その発明は公知となるから、特許を受けることができない。
(3) 特許庁の審査基準は、人間を治療する方法を、特許権による保護の対象から除外している。
(4) 特許権者が適法に販売した特許製品は、特許権者の許諾なく転売することはできない。
(5) 自然法則を利用した技術的思想は、発明には該当しない。

(ウ) 著作権法に関する説明として、正しいものを次の選択肢から 1 つ選び、その番号を解答欄 (7) にマークしなさい。

- (1) 授業の内容をそのまま手書きでノートに書き写す行為は、著作物の複製にはあたらない。
(2) 飲食店に設置したテレビにより、放送されているテレビ番組をその店の客に見せる行為は、著作権の侵害には該当しない。

- (3) 著作物や題号に対し、著作者の意に反する変更、切除、その他の改変を加える行為は、同一性保持権の侵害を構成する。
- (4) 著作権の存続期間は、原則として、著作物の創作から20年で満了する。
- (5) 入学試験の問題として著作物を複製する場合には、事前に著作権者の許諾を得なければならない。

学習指導要領 (1) - 知・技 - イ**学習内容 (1) - イ 法・情報セキュリティ・情報モラル**

(工) 個人情報の保護に関する法律（個人情報保護法）に関する説明として、正しいものを次の選択肢から1つ選び、その番号を解答欄 にマークしなさい。

- (1) 氏名は、同姓同名の人が生存している場合に特定の個人を識別することができないから、個人情報には該当しない。
- (2) 新聞に掲載された公知の情報は、個人情報には該当しない。
- (3) 外国に居住する外国人の個人情報は、個人情報保護法による保護の対象には該当しない。
- (4) 個人情報取扱事業者が、顧客との電話の通話内容を録音することは、書面での同意がない限り、個人情報保護法に違反する。
- (5) 特定の政党が発行する新聞や機関誌等を購読しているという情報は、要配慮個人情報に該当しない。